

プレスの皆様へ

ドキュメンタリー映画『みんなのふね』プレス資料



1600 人が石斧で丸木舟を作った前代未聞のプロジェクトを記録した
命と本当に向き合うためのドキュメンタリー

企画: Jomon さんがやってきた! プロジェクト事務局
制作: Tiny Mouse Factory
監督 / 音楽: にじやまゆうき
2025 年 | 日本 | 92 分 | カラー | STEREO
©2025 Tiny Mouse Factory

ユナイテッドピープルが主催する映画上映会サービス【cinemo】での取り扱い開始!

映画上映会の cinemo
<https://www.cinemo.info/index.html>

映画に関するお問い合わせ: タイニーマウスファクトリー tinymouse.net@gmail.com

映画の概要

石おのと巨木が、教えてくれたこと

「みんなが笑顔で乗れる舟を作ろう」石おのを手にする男、縄文大工・雨宮国広は言った。
丸木舟を作る為に頂く命は樹齢 250 年の杉。
モノが溢れる時代に、敢えて原始に還り行動する意味とは。
そこまでして頂く命に向き合う心とは。
祖先が辿ったであろう世界を現代に蘇らせることで、初めて感じることができる、人類が忘れてしまった「何か」。
そんな「Jomon さんがやってきた！プロジェクト」を 2 年以上に渡り追いかけるドキュメント映画。

Jomon さんがやってきた！プロジェクト

原始の知恵と道具を用いて、全国の子供たちと一緒に日本を一周するための巨大な丸木舟を作ろう、というプロジェクト。

Part1・杉の木を伐る

Part2・全国を回って皆で丸木舟を作る、

Part3・丸木舟に乗る

という全 3 部構成で 2021 年から開始（現在も進行中）。

参加する子供たちは自らの手で石おのを作り、巨大な杉の木と向き合う中で様々なことを考え、感じることをテーマに掲げ、活動する。

プロジェクトの原資はクラウドファンディングで集められている。

監督：にしやまゆうき

企画：Jomon さんがやってきた！プロジェクト Tiny Mouse Factory

プロデューサー：太田 祐太郎 ワタナベタケオ 渡部 紀子 COFFEE EXLIBRIS 吉川 輔良 吉川 然無 吉川 宗太朗 にしやまゆうき

撮影：にしやまゆうき 雨宮 由佳 ドローンオペレーター：にしやまゆうき 英語字幕作成：モントウヤ美咲

登場人物

雨宮 国広 雨宮 弘子 杉山 由紀 雨宮 由佳 宮下 崇 井上 修 鈴木 克章 原 康司 田中 道子 谷口 哲也 伊藤 明博 芦沢 潤 森下 博司

撮影協力

るつぽブレイン 株式会社ピークスフィルム 東栄町林業センター 西湖キャンプビレッジ ノーム 青函フェリー株式会社 NPO 法人地球元気村 オホーツクの村 つがる地球村オートキャンプ場 鮭川村エコパーク 栗の木オートキャンプ場 津南町農と縄文の体験実習館なじょもん 八風平キャンプ場 野上リバーサイド キャンプ場 タヤけ小やけふれあいの里 神之川キャンプ場 梅ヶ島新田温泉 黄金の湯 みんなの村 のき山 学校 真脇遺跡公園 STIHL の森 京都（府民の森ひよし） ともやま公園キャンプ村 公益財団法人竹中大工道具館 和気美しい森 ATATA OLIVE PARK 荘内半島オートキャンプ場浦島 鹿児島県上野原縄文の森 NEOS アウトドアパーク南城 ボートレース浜名湖 浜名湖パドル 5LAKES & MT YBS 山梨放送

協力

株式会社フェニックス 株式会社折込広告社 株式会社 HAMAYOU リゾート 株式会社コフィアエクスリブリス 株式会社吉匠建築工芸 Grover Engineering COYA fine furniture ノウイングウェイジャパン 未来と翼 合同会社 うなぎの井口 東急リゾートタウン浜名湖 油山寺 株式会社イングロ 株式会社テレビ静岡 静岡エフエム放送株式会社 中村建設株式会社 杉山メディアサポート株式会社 朝日住宅 エクステリア鈴幸 おそうじ本舗 浜松城北店・浜松三方原店 株式会社田中建設 株式会社赤ちゃんデパート河田 浜松補聴器センター ごくらく屋 舞阪クリニックフラワーショップのなか 浜北さくら台病院 VOITECH 中山自転車店 セレモニープラザとわに ヘルスサポートマンションゆめの組曲 株式会社オー・ビー・ケー カフェ・オーリーバ 浜名湖カナルオートキャンプ場 たかやなぎ整体院・整骨院 株式会社フソー 白羽楽器株式会社 株式会社ハヶ代造園 有楽製菓株式会社 浜名湖・ワンダーレイクプロジェクト 株式会社北川印刷 タック株式会社 株式会社イズミ 株式会社アイリック

編集 / MA: Studio Drothy 作曲・演奏 にしやまゆうき 制作: Tiny Mouse Factory

登場人物・Jomon さんについて



本名・雨宮 国広（あめみや くにひろ）

1969 年、山梨県生まれ。丸太の皮むきのバイトをきっかけに大工の道へ。

ログハウスビルダー→大工→二級建築士→宮大工と歩み、

古民家や社寺文化財の修復等、手道具での伝統的な手法に傾倒する中、

2009 年に石おのと出会い、その素晴らしさに気づく。

石川県・真脇遺跡にて石おの等を用いた縄文住居の復元、

国立科学博物館での考古学実験「3 万年前の航海 徹底再現プロジェクト」

においては、伐採から石おのを使用して外洋航海用丸木舟を製作。

手道具のみで自作した「縄文小屋」と呼ぶ小屋に暮らす。

纏う衣装はロードキル被害で命を落とした生き物たちの忘れ形見。

2025 年、山梨県より長年に亘る環境活動と青少年教育への功績を認められ、「若宮賞」を受賞。

2026 年現在、本作で完成した丸木舟「ミンナ」に乗り、日本一周の航海をしながら沿岸のゴミ拾いを実施中。



映画上映会の cinema
<https://www.cinema.info/index.html>

映画に関するお問い合わせ：タイニーマウスファクトリー tinymouse.net@gmail.com

監督紹介

にしやまゆうき 監督・音楽・プロデューサー

1981年、兵庫県生まれ。27歳で編曲家としてデビュー。
作曲、音楽学校講師等を経て、31歳で写真・映像撮影も業務として開始。
規模は小さくとも作れるものがある、との思いから、屋号を Tiny Mouse Factory と名付ける。
2019年、国立科学博物館が実施した実験考古学「三万年前の航海 徹底再現プロジェクト」では映画兼 VR コンテンツ兼 TV 番組（NHK BS4K 三万年の記憶）の撮影クルーとして同行。ここで Jomon さんと出会う。
主な業務は国立公園や自治体 PV、企業用映像、MV 等の撮影、編集。
全国を動き回る傍ら、BGM 制作等も並行して行っている。

長編映画デビュー作『みんなのふね』は監督・撮影・音楽・編集などを手掛け、ロケ地である北海道から沖縄まで車中泊で撮影を2年8か月かけて敢行。
Los Angeles Film and Documentary Awards, インド国際独立映画祭 (GIFFI) で最高賞、Alpine International Film Festival で監督賞・撮影賞を受賞するなど、9つの映画祭で評価を得る。



監督のコメント

電動工具も鉄製道具も使わないで、「石おの」だけで丸木舟を作る映画。
この映画を何度も観ていると、ふと「これは歩いて廻るお遍路さんのようだ」と思うようになりました。
電車も自動車もバスも自転車も使わない。何なら住んでいる場所から一番札所まですら歩いていくような感覚。
何か月、いや年単位でかかるかもしれません。それを敢えてやる意味…

それは、「遅いからこそ見える世界がある」ということなんじゃないでしょうか。歩みの鈍いカメだからこそ見える世界。
足元の草花を眺め、遠くの山が少しずつ近づいてきて、その向こうに青い海が見え、町の人々と話し、時に立ち止まって振り返る。
あっという間に通り過ぎては出会うことの無い世界。それをじっくり噛みしめながら、ゆっくりでもよいと思い、歩く。

「早ければ早いほど良い」「楽ができるなら楽がしたい」というのは、人の性のひとつでしょう。僕もそうです。
でももし、「ゆっくりでもよい」と自分で自分を解放することができたなら、きっと全く違う気付きと哲学が心に浮かぶことでしょう。

名前がイメージとして強すぎるので誤解されがちですが(笑)、彼は決して考古学的に正確な縄文人 / 文化を追及・模倣するわけでもなく、ファッションとして原始人をやっているわけでもありません。
ただ現代において、石おのの「歩みの遅い素晴らしさ」に気付いただけなんです。
縄文大工・雨宮国広はチェーンソーを扱うログハウスビルダーからキャリアをスタートし、鉄の手道具(手斧、鉋など)を経由して石おのにたどり着きました。
そう、彼はしっかり現代の利器の持つ力を知っている「現代人の職人」なのです。
それがゆえに彼は現代社会と自分の理想のギャップに苦しむ毎日を何年も何年も送ることになります。
しっかり彼自身の足で歩んだからこそ見えた「彼の思う世界」と「現代社会」とのズレを、一体どうすればいいのかと悩み、そしてこんなとんでもなく巨大なプロジェクトを、最初は一人で実行したわけです。その実行の先に何かがある。それは職人の勘としか言いようがありません。

どんな立場の人も、どんな生き方をしている人も、彼の背中に惹きつけられるはずです。
そんな彼の生き生きと生き抜いていく様を残すことができた。僕はそれだけで最高の気分です。

映画祭受賞歴



Los Angeles Film and Documentary Awards (アメリカ)
Winner - Best Indigenous Voices Documentary

インド国際独立映画祭 (GIFFI・インド)
1位 - 国際長編ドキュメンタリー部門 - ASIA

アジア独立映画祭 (AIFF・インド)
優秀賞 - 国際ドキュメンタリー部門

Documentaries Without Borders International Film Festival (アメリカ)
EXCEPTIONAL MERIT(卓越した功績) - ドキュメンタリー部門

Stockholm City Film Festival (スウェーデン)
ファイナリスト - 長編ドキュメンタリー部門

スウェーデン映画賞
セミファイナリスト - 長編ドキュメンタリー映画

Alpine International Film Festival (スイス)
監督賞・撮影賞・編集賞

公式選出: ドバイシティ映画祭・東京リフトオフ映画祭



映画『みんなのふね』に寄せられたお言葉

片岡鶴太郎様 (芸術家・俳優) のコメント

(ご本人ブログより) <https://ameblo.jp/tsurutaro-blog/entry-12889475169.html>

原始の道具を辿れば、現代人の失った物が見えて来るかも知れない。

人間本来の生き方はここにあると確信してしまう程。

本当に素晴らしい作品です！

風間深志様 (冒険家) のコメント

(ご本人 Facebook より)

<https://www.facebook.com/shinji.kazama.54/posts/pfbid0243BRp8thk21tPC2CUkrWMAFuw7ofV1ixd88aViwwhpk8FndSnavzCwh86ojtPel?rdid=FDYumeqJmFpNScpU#>

内容は、素晴らしい！ものだった。

疲弊した地球環境、行き詰まった文明の中で、確かな手応えを感じるメッセージが、我が胸を突き抜けるのを感じた。

酒井 誠一様のコメント

(株式会社ティムコ 代表取締役社長)

命との向き合い方、とても考えさせられるものがありました。

木が倒れるまで、船ができるまで、そしてこれから 250 年の先まで。

全てにドラマがあります。

この大量生産大量消費の時代だからこそ、向き合うべき内容です。

Asian Independent Film Festival のレビュー

(映画祭公式 HP より) <https://asianiff.com/minna-a-boat-for-everyone/>

スピード、近道、そして即時の満足感に囚われた時代に、この映画は瞑想のように感じられる。

- 中略 -

まるで時の流れがゆっくりと進み、世界がデジタルの鼓動ではなく、

人間の鼓動に再び同期していくかのような感覚に襲われる。

映画上映会の cinema
<https://www.cinema.info/index.html>

映画に関するお問い合わせ: タイニーマウスファクトリー tinymouse.net@gmail.com